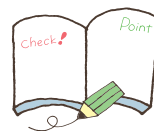


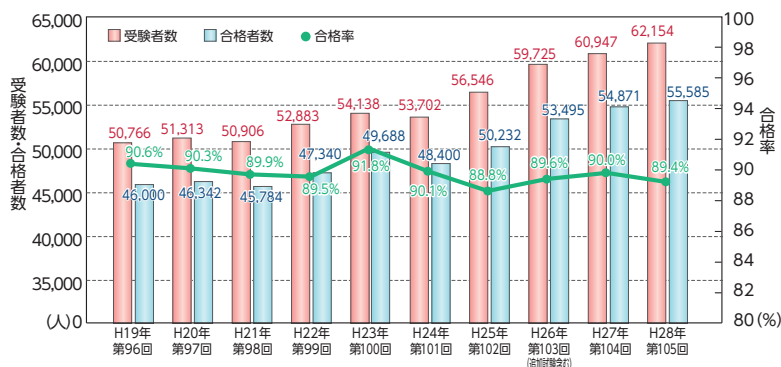
看護師国家試験対策 練習問題



1 国試の合格基準ってどうなってるの？

看護師国家試験問題は、「必修問題」「一般問題」「状況設定問題」の3種類に分けられています。このうち①「必修問題」②「一般問題と状況設定問題」の2種類にそれぞれ合格基準が定められており、どちらもクリアすることで合格が決まります。必修問題は毎年8割以上の正答率が問われる『絶対評価』、一般問題と状況設定問題は、年によって合格基準が変わる『相対評価』を採用しています。どんなに一般問題と状況設定問題の正答率が高くても、必修問題を8割以上クリアしなければ不合格となってしまいます。一般問題と状況設定問題は、合格基準が毎年変動しますが、最低でも7割の得点ができるよう学習しましょう。看護師国家

■合格率の推移



試験は資格試験であり、合格基準を満たした人はすべて合格できる試験です。まずは必修問題から確実に押さえていきましょう。

■一般問題+状況設定問題 合格基準の推移

	第100回 (平成23年)	第101回 (平成24年)	第102回 (平成25年)	第103回 (平成26年)	第104回 (平成27年)	第105回 (平成28年)
得点 / (満点)	163点 / 250点	157点 / 247点	160点 / 250点	167点 / 250点	159点 / 248点	151点 / 250点
得点率	65.2%	63.5%	64.0%	66.8%	64.1%	61.1%

※第106回(平成29年)は後日公表します。

ここ数年、合格率は90%前後で推移していますが不合格者は年々増加しており、第103回、第104回、第105回試験では6,000人を超えました。今後も看護大学・学部が増加等から受験者数、不合格者数は増加する可能性があります。



2 合格のためにはどう勉強したらいいの？

正答率の高い問題をまずしっかり解けるようになることが、合格のための学習の基本となります。不合格の人は、正答率の高い問題を多く落としてしまっているのです。次のページ以降の練習問題は、「看護師国家試験 高正答率過去問題集 でした! 問題101~105回試験問題」から抜粋しています。この問題集は国家試験対策の実績ある東京アカデミーが、第101~105回の看護師国家試験受験者(毎回16,000人以上)の解答データを徹底分析し、正答率70%以上の過去問題を関連問題別に編集したものです。看護師国家試験では、正答率70%以上の問題が解けないと、合格基準に達することが難しいと言われています。しかし、正答率70%のラインとは、非常

に簡単な問題から、少し勉強をしたら分かる程度の問題です。今回は、その問題集から **Median** が独自に正答率70%に近い問題(つまり間違えやすい問題)を必修問題と一般問題に分けて選別しました。解説やCheck&Check!も付け、より理解が深まるように編集しましたので、力試しのつもりでチャレンジしてみてください。

なお、Check&Check!は、東京アカデミーの講義で使用する「オープンセサミ参考書」から引用しています。



3 国試の出題傾向ってどうなってるの？

第105回試験を見ると、単なる丸暗記では対応できない、いわゆる考えて解く「問題解決型」「解釈型」の問題が増加しています。しっかりと基礎知識とそれを応用したアセスメント能力が問われているのです。また、第106回試験から

は新たな出題形式が導入されたり、第107回試験では新たな出題基準が適用されたりと、出題傾向は年々変わってきています。下のコラム欄も参考に、出題傾向を押さえていきましょう。

ここに注目!!

第106回・第107回からここが変わる!!

●第106回から新たに導入される出題形式

2016年8月に厚生労働省より、「状況設定問題における単問の導入」について通知がありました。状況設定問題はこれまで、1状況あたり2連問または3連問で出題されていましたが、これに加え、長い状況文の付いた単問が導入されます。つまり、1問を解くために読む文章が増えるということです。時間を決めて新聞や本を読むなどして、制限時間内に、文章の意図を正確に読み解く力を養いましょう。

●第107回から新たに適用される出題基準

第107回試験からは、新たな出題基準が適用されます。出題については、
①看護の統合と実践は臨床実践に近い形で抜本的に出題基準を見直す
②統計調査データや法律等、社会情勢を踏まえた最新の知識を出題する
③非選択式の問題は識別指数*が高い傾向にあるので、状況設定問題に

組み込むなど積極的に出題する

④情報を取捨選択し、根拠に基づいて状況を判断する能力を問う問題を強化する

とありますので、今までの勉強方法に加えて、臨床を意識した情報を取捨選択して、状況に応じた個別的なケアを導き出す論理的な思考を強化する学習が必要です。特に実習での患者背景や検査値・画像を論理的に統合する経験が新たな国家試験対策のカギとなります。

*識別指数…成績上位者(勉強している人)は解けて、成績下位者(あまり勉強していない人)はあまり解けない問題を見分けるための1つの指標。上位者が全員正答、下位者が全員誤答した問題(きちんと勉強した人だけが解ける問題)は識別指数が高くなる。